

# とちぎの子ども「確かな学力」を育むために

～全国学力・学習状況調査の結果に基づく栃木県学校改善支援プラン(保護者向け)～ 栃木県検証改善委員会

## 確かな学力を育むために

栃木県検証改善委員会委員長 松本 敏

私ども栃木県検証改善委員会は、文部科学省からの委託を受け、平成19年4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を基に、「栃木県学校改善支援プラン」を作成してまいりました。プランの作成に当たっては、学校での授業改善以外の点についても、できるだけ幅広く検討してまいりました。

本県の子どもたちの生活の状況を全国と比較してみますと、子どもたちが大変読書好きであるなど、質問紙への回答の多くに望ましい傾向が見られました。また、ペーパーテストにおいても、特に、中学校国語で作文を書くことが得意であったり、算数・数学では知識がきちんと身に付いていたりしており、学校や家庭における、学習、生活の成果が表れています。しかし、小学校算数において、深く考えたり理由を説明したりする問題が苦手であるなど、課題もいくつか見られたところです。

私どもは、学校や家庭がどのようなことに取り組んでいくことが望ましいのかを、データの分析結果を基に、様々な立場から知恵を出し合っただけでまいりました。どうか、保護者の皆様には、学校と手を取りあって、子どもたちが大人になった時に真に役立つような、確かな学力が育まれていきますよう、家庭での御支援をよろしくお願いいたします。

## ごあいさつ

栃木県教育委員会教育長 平間 幸男

栃木県検証改善委員会の皆様には、9月14日の第1回委員会で発足して以来、「全国学力・学習状況調査」における本県の結果分析、並びに「栃木県学校改善支援プラン」の作成に誠心誠意お取り組みいただき、このたび、リーフレットとして御発表いただきますことに対しまして、心より感謝申し上げます。

本プランを見ますと、各学校における、日々の授業での改善点や授業以外での取組、家庭に呼びかけていくことなど、実に幅広く分析されています。これは、本県の子どもたちが示した実際の数値に基づいて実態にあった提言をされていることに大きな価値があり、我々栃木県にとってはまさに宝物であります。しかし、この宝物を飾っておくだけでいいわけではありません。いただいたプランを、各学校や家庭でしっかりと実践し、大切なとちぎの子どもたちに、より確かな学力を育てていくことが重要であると考えます。

当然ながら、各学校では市町教育委員会の指導の下、「一人一人が主体的に思考・判断する活動」や「各教科における伝え合う活動」を充実させるなど、これまで以上に実のある学力向上対策に取り組んでいきます。私どもも、本プランに基づき、各学校とともにとちぎの子どもたちの確かな学力を育ててまいりますので、保護者の皆様の御協力をお願いいたします。

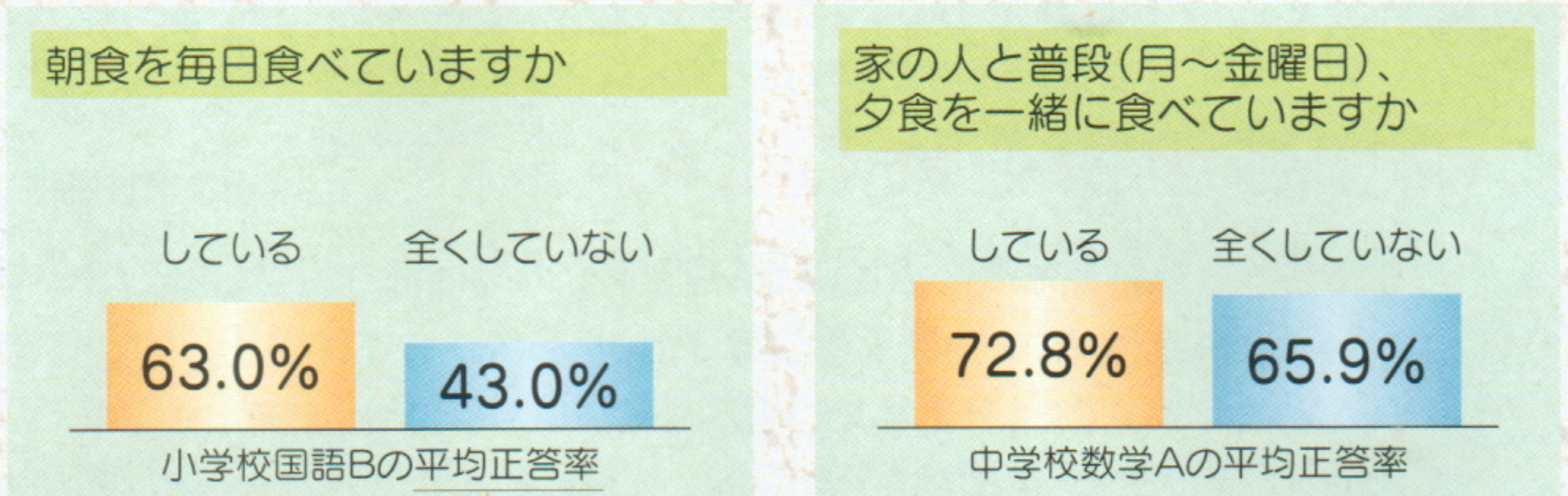
## 全国学力・学習状況調査の概要

- 調査の目的**
- 全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育の結果を検証し、改善を図る。
  - 教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育の結果を把握し、改善を図る。
- 調査実施日** 平成19年4月24日(火曜日)
- 調査の内容**
- 小学校6年(国語・算数)、中学校3年(国語・数学)の原則として全児童生徒を対象
  - 「知識」に関する問題Aと、「活用」に関する問題Bを出題
- また、生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査(児童生徒質問紙、学校質問紙)を実施

# 家庭ではこんなことに取り組みましょう

## 1 食事をきちんととらせましょう

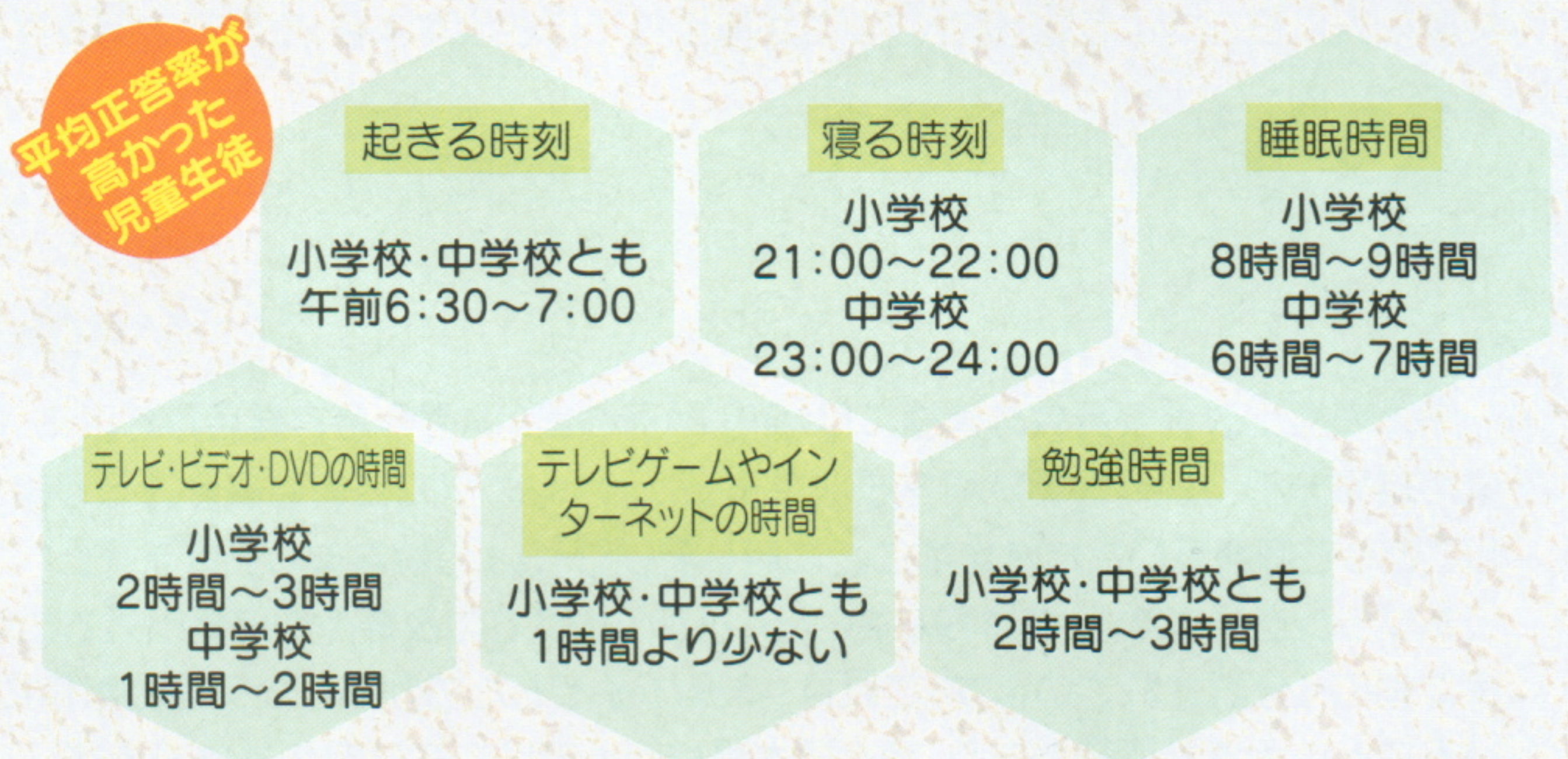
朝食は、毎日必ずとらせましょう。また、夕食は、毎日は難しくても、週に数回はお子さんと一緒に話をしながら食べましょう。たまには、食事を一緒に作ったり、一緒に食器を洗ったりしながら、話をしているかがでしょうか。



平均正答率とは…すべての児童生徒の正答率を平均した値です。いわゆる「平均点」と同じようなものと考えてください。

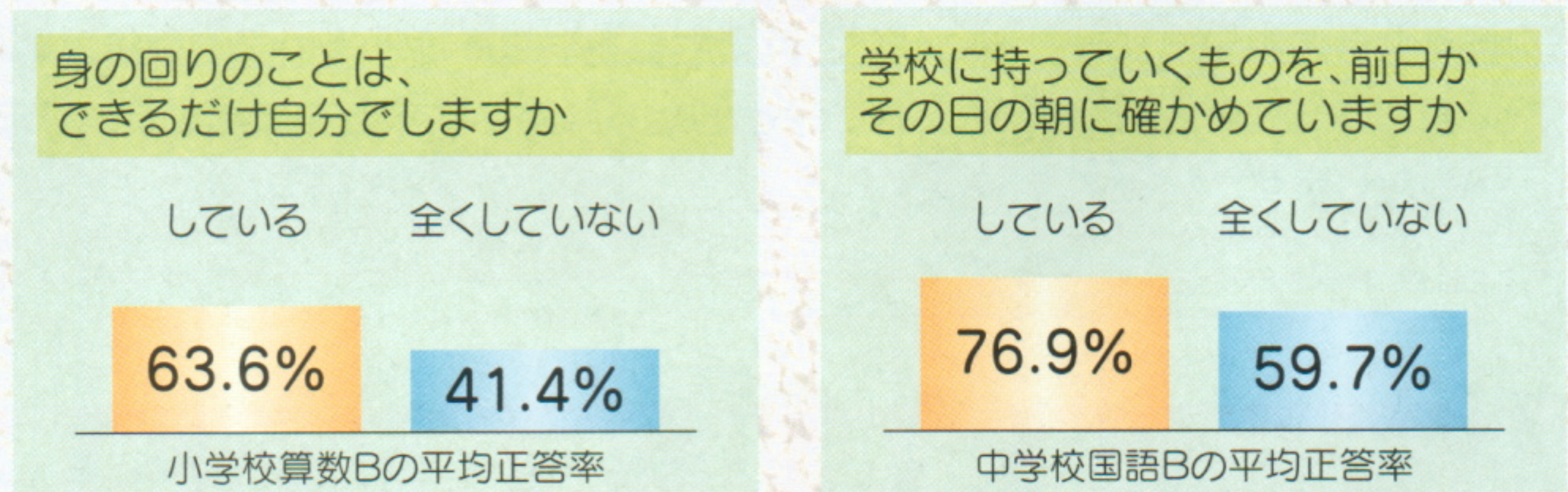
## 2 生活のリズムについて見直しましょう

余裕をもって起きることや、十分な睡眠をとることを確認した上で、学校から帰ってきてから、寝る時刻までにすることを親子で話し合ってみましょう。その際、宿題、読書、お手伝いの他に、お子さんが少しゆっくりできる時間もとれるといいでしょう。



## 3 自分のことは自分でできるようにする努力をさせましょう

人に頼らずに、自分のことは自分でできるようにすることが、独り立ちにつながります。朝、起こされるのではなく、自分の意志で起きるようになることが大きなステップになるでしょう。



### 本県における実施の状況

小学校(6学年) ……414校 ・市町立小学校 409校 18,203名 ・県立特別支援学校小学部 5校 9名  
 中学校(3学年) ……170校 ・市町立中学校 164校 17,304名 ・県立特別支援学校中学部 6校 10名

平均正答率 【小学校】 国語A 81.7%(81.7) 国語B 61.0%(62.0) 算数A 81.1%(82.1) 算数B 62.1%(63.6)  
 ( )内は全国 【中学校】 国語A 82.7%(81.6) 国語B 74.0%(72.0) 数学A 71.9%(71.9) 数学B 60.6%(60.6)

## 4 ほめる機会を増やしましょう

1日1回はお子さんをほめるよう心がけましょう。ほめられることで自信がつき、自己肯定感がもてるようになります。結果が満足のいくものでなくても、その過程において得られたことが大切です。

自分には、よいところがあると思いますか

当てはまる 当てはまらない

73.2% 65.1%

中学校数学Aの平均正答率

ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか

当てはまる 当てはまらない

82.8% 68.9%

小学校国語Aの平均正答率

## 5 豊かな人間性や規範意識を身に付けさせましょう

学校での出来事や、話題となっている世の中の出来事などについて、自分の思いをお子さんに伝えましょう。その際、お子さんには親の考えを押しつけるだけでなく、きまりの大切さを考えさせることも大切です。

人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか

当てはまる 当てはまらない

64.0% 42.0%

小学校国語Bの平均正答率

学校のきまり(規則)を守っている

当てはまる 当てはまらない

64.6% 40.7%

中学校数学Bの平均正答率

## 6 家庭でのコミュニケーションを大切にしましょう

お子さんの年齢が上がるにつれ、家庭であまり話をしたがるなくなりますが、たまには、一緒に買い物に行ったり、同じ趣味に興じたりしながら、気軽に話をしてみたいかがでしょうか。また、学校行事に参加したり、授業参観をしたりした後は、学習した内容について自分の感想を伝えてみたりすることもよいでしょう。テレビのニュースや新聞記事などが話題になると会話が広がるかもしれません。

家の人と学校での出来事について話をしていますか

している 全くしていない

77.6% 64.6%

中学校国語Bの平均正答率

世の中のいろいろな出来事に関心がありますか

当てはまる 当てはまらない

66.0% 47.0%

小学校国語Bの平均正答率

新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか

当てはまる 当てはまらない

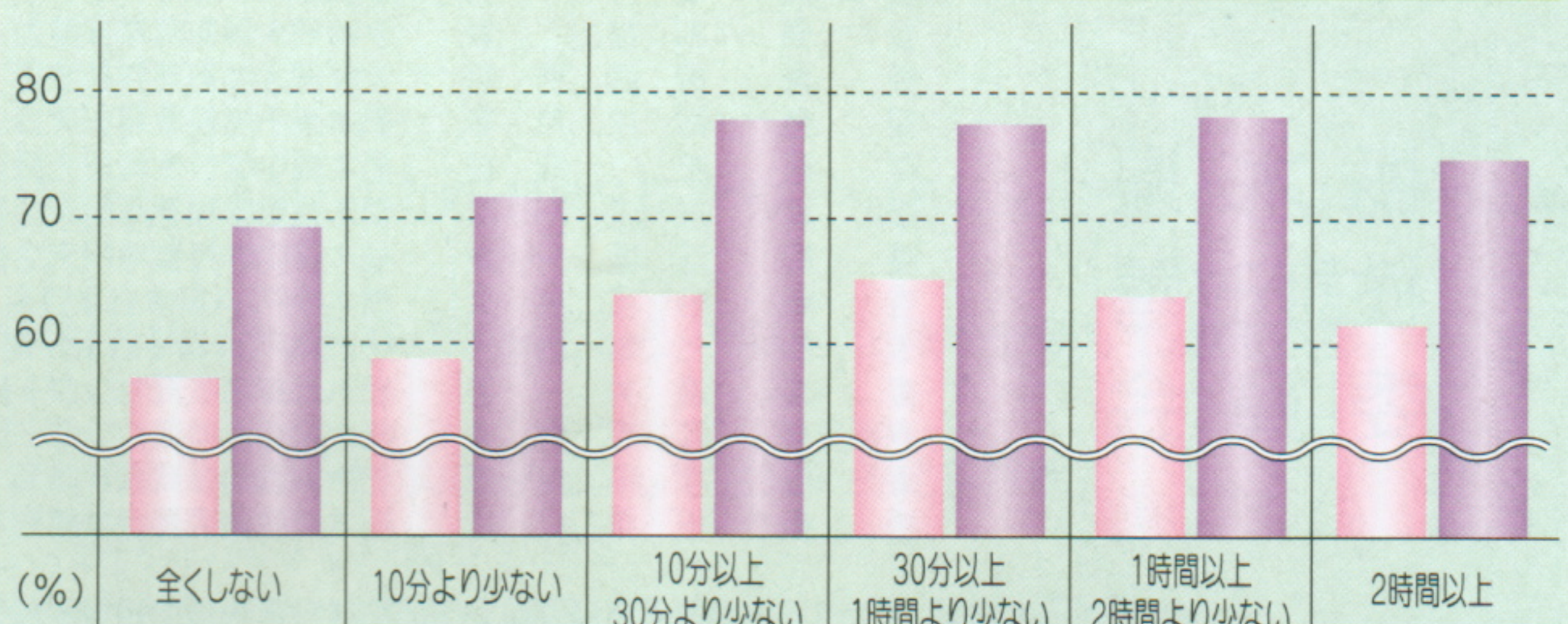
83.2% 72.6%

小学校算数Aの平均正答率

## 7 読書の習慣をつけさせましょう

一緒に図書館や書店に行ったり、家族で同じ本を読んだり、お薦めの本を紹介したりしてはいかがでしょうか。そうすることで、家族のコミュニケーションも深まります。

家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、読書をしますか



小学校算数B  
中学校国語B

# 学校での取組

## 一人一人が主体的に思考・判断する活動の充実

例えば、既に身に付いている内容を何度も繰り返すような指導内容については精選し、児童生徒一人一人が主体的に思考・判断する活動を行う時間を確保し充実していくことが重要であると考えられます。

## 各教科における伝え合う活動の充実

集団で学習していることよさを生かし、互いに伝え合うことを目的とした学習活動が重要であると考えられます。そのためには、自分が表現するだけでなく、考えや説明を聞き合い、互いに練り上げることで、理解がさらに深まるということを経験する必要があると考えられます。

## 読書活動への継続的取り組み

読書は、学習にいい影響を及ぼしているようです。各学校では、朝の読書活動などを中心に児童生徒が読書好きになれるよう努力してきていますが、今後も、家庭や図書館と連携を図るなどしながら、一層読書に親しみが持てるよう努力することが大切です。

## 落ち着きの中にも熱意ある雰囲気作り

これまでも強調されてきたように、学習指導と児童生徒指導は深く関わり合っています。児童生徒一人一人を生かしつつ、学級集団、学年集団を育て、落ち着きの中にも熱意ある雰囲気作りに努めることが、確かな学力の向上のためには重要です。

## 家庭学習の習慣づけ

家庭で学習する内容は、学校の授業内容とより効果的に関連づけていくことが大切です。授業で身に付けたことを自力で解けるかどうか試してみる、授業で学習したことを他の場面にも当てはめ応用してみるなど、色々な関連が考えられます。いわゆる宿題がそのいいきっかけになりますが、毎日多くの宿題を出すことで、かえって学習が嫌いになってしまうことも考えられます。特に中学校では、教科ごとに担当教師が違いますから、一人の生徒に与える負担を調整する必要があります。宿題の量や質について、適切な在り方を探っていく必要があると考えられます。

## 教職員が力を合わせた実態分析

評価の観点の趣旨や評価規準等との関連から、教科によっては「この問題がおおよそ解ける程度まで育てよう」とする、目安になるような問題を適切に設定する必要があります。また、テスト等の結果は評定を出すための道具としてだけ活用するのではなく、自分たちの指導に何が欠けていたのか、どんな点がよかったのか等を教職員同士が解釈し合うためにも用いることが大切です。児童生徒の学習状況や生活状況、効果のあった指導などについても、互いに情報を交換し合う雰囲気が重要です。

## 県教育委員会では次のような取組を進めていきます

### 学校訪問で

学校訪問の際には、授業の中では、個に応じた指導によって、児童生徒一人一人が主体的に思考・判断できているか、また、集団で学習することよさを生かし互いに伝え合いながらそれぞれの考えを練り上げているか…といった視点から指導主事等が助言します。

### 研修で

各学校における実践事例などを持ち寄り、より効果のある指導の在り方について情報交換しながら考察していきます。

### 調査研究で

これらの方策により、児童生徒の学習状況がどのように変容するかを、長期的に調査し、指導の成果や課題を明らかにしていきます。

## 栃木県 検証改善 委員会

委員長	松本敏	宇都宮大学教育学部教授
委員	木村寛	宇都宮大学教育学部教授
委員	香西秀信	宇都宮大学教育学部教授
委員	綱川孝	栃木県小学校教育研究会国語部会副会長(宇都宮市立上河内中央小学校長)
委員	星成雄	栃木県小学校教育研究会算数部会副会長(上三川町立北小学校長)
委員	古内正	栃木県中学校教育研究会国語部会長(真岡市立山前中学校長)
委員	江面一雄	栃木県中学校教育研究会数学部会長(宇都宮市立河内中学校長)
委員	若度哲久	栃木県PTA連合会副会長
委員	若林由美子	栃木県PTA連合会常任理事
委員	金井正	栃木県総合教育センター研修部長
副委員長	江部信夫	栃木県総合教育センター研究調査部長
委員	宇田貞夫	栃木県教育委員会事務局学校教育課長
委員	佐藤仁	栃木県教育委員会事務局学校教育課主幹

事務局 栃木県教育委員会事務局学校教育課小中学校教育担当